

# オーストリア、日本の劇場を感動の渦に巻き込んだ 宮本亜門演出のモーツァルト最高傑作のオペラ 『魔笛』 待望の再演決定

2021年9月8日(水)・9日(木)・11日(土)・12日(日)東京文化会館 大ホール

2021年4月10日(土) チケット一般発売開始



2015年東京二期会オペラ劇場公演より（撮影：三枝近志）

公益財団法人東京二期会は、オーストリア・リンツ州立劇場との共同制作で、モーツァルト作曲のオペラ『魔笛』を2021年9月8日(水)より上演いたします。これに伴い、2021年4月10日(土)よりチケット一般発売を開始します。東京二期会が新時代に贈るモーツァルト『魔笛』にどうぞご期待ください。

## オーストリア、日本の劇場を感動の渦に巻き込んだ宮本亜門演出『魔笛』



<演出 宮本亜門>

このプロダクションは、演出家宮本亜門の欧州オペラデビューとして、2013年オーストリア・リンツ州立劇場のシーズン・オープニングに世界初演されました。プロジェクションマッピングの最新技術を駆使した、色彩豊かで躍動感あふれる『魔笛』のファンタジー世界は、「拍手が異様なほどいつまでも鳴りやまなかった」（クローネン新聞）、「『魔笛』の精神は価値ある姿で蘇った。宮本亜門とそのチームに特別な拍手を送りたい！」（ノイエス・フォルクス新聞）など、現地メディアからも高い評価を受け、ロングラン公演で連日満席を記録しました。2015年の東京凱旋公演（東京二期会主催）でも連日の大入りとなり、大きな評判を呼びました。特に若い世代からの支持が高く、東京公演の4日間では700名以上の学生の来場を記録するなど、これまでオペラ鑑賞に触れたことのなかった方の多くから賞賛を贈られる公演となりました。初演以来、再演を望む声の高かった宮本亜門演出『魔笛』が、ついに2021年9月に東京で実現します。



photo by Simon Pauly

<指揮 リオネル・ブランギエ>

二期会は2022年に創立70周年を迎えます。当公演は、2021年から3年にわたってお贈りする「二期会創立70周年記念公演」シリーズの一つであり、2021-2022シーズンのオープニング演目でもあります。

70年近くの二期会の歴史において、最も公演回数の多い作曲家がモーツァルトであり、中でも『魔笛』は今回で16回目を迎えます。今回も、ザラストロ妻屋秀和、タミーノ金山京介、パミーナ嘉目真木子、夜の女王高橋維、パパゲーノ萩原潤らプレミアキャストのほか、演出家からの信頼も厚い、東京二期会が誇る最高峰の歌手が集結しています。

指揮にはリオネル・ブランギエ。1986年フランス生まれという若さで、すでにチューリヒ・トーンハレ管弦楽団の首席指揮者・音楽監督を歴任し、これまでに、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、ロンドン交響楽団、グヴァントハウス管弦楽団ほかと共演してきました。欧米の一流オーケストラを席捲する新鋭が、この度、東京でオペラ・デビューを果たします。

## 試練を乗り越え、愛を大切に生きていく ～ 今、『魔笛』を上演する意味

オペラ『魔笛』は、主人公である王子タミーノと彼が心を寄せる娘パミーナが、高僧ザラストロから与えられた試練を乗り越え、愛を成就させるとともに、世界も平和に満たされていくという物語です。今、世界が置かれている状況を考えると、コロナ禍にいる私たちは、まさに突然与えられた試練の前に立ちすくんでいるタミーノとパミーナであるかのようです。

この度の再演に際して、宮本亜門は「（『魔笛』にあらわれる試練とは）

『最も恐ろしいものを見て、それでも二人で生きていくのか』という厳しい問いだと思う」と語り、タミーノがパミーナとともに試練を受ける決意

をすところは「自分が最も愛する人とともに歩み、愛を大切に生きていくということの宣言でもある」と続けます。

オペラ『魔笛』は、1791年ウィーンで初演された当時より絶大な人気を誇り、今日に至るまで世界中の人々に感動を与えてきました。2013年に誕生した宮本亜門演出『魔笛』は「『魔笛』の精神が蘇った」と評価され、オーストリア、日本両国で大きな支持を受けました。そして、世界の状況が一変した今、このオペラの普遍的なメッセージは、私たちの心に特別に響くものと確信しています。物語により深まりをもってお贈りするこの度の再演にどうぞご期待ください。



演出・宮本亜門からのメッセージ入り予告編映像公開中！

(右のQRコードよりご覧ください)



## 『魔笛』から始まるオペラの世界～〈二期会名作オペラ祭〉そして、“もうひとつの『魔笛』”へ！

2021-2022シーズンは、『魔笛』に続いて、11月に日生劇場においてウィンナ・オペレッタの代表作J.シュトラウスII世『こうもり』を上演します。東京二期会では、これらオペラの歴史の中でも名作中の名作である『魔笛』『こうもり』の2演目を〈二期会名作オペラ祭〉と題して、S席の料金を12,000円と破格の設定でお買い求めやすくすることをはじめ、これまでオペラ、オペレッタ鑑賞の機会がなかった方にもお越しいただきやすくご紹介いたします。

また、2022年2月には、20世紀最大のメルヘンオペラの名作R.シュトラウス『影のない女』を公演いたします。2組の夫婦が試練を乗り越えるという筋書きは、まさに『魔笛』のオマージュから生まれたものであることから、『影のない女』は“もうひとつの『魔笛』”とも呼ばれています。ぜひこの機会に『魔笛』と『影のない女』をあわせてご鑑賞ください。なお今回の『影のない女』は、二期会初演であり、オペラ演出の世界的巨匠ペーター・コンヴィチュニーによる東京発のワールド・プレミア公演となります。

『魔笛』から始まるオペラの世界へ。2021-2022シーズンの東京二期会にどうぞご期待ください。

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）

《二期会創立70周年記念公演》

リンツ州立劇場との共同制作公演 東京二期会オペラ劇場〈二期会名作オペラ祭〉

# モーツァルト 『魔笛』

オペラ全2幕 日本語字幕付き原語(ドイツ語)上演

東京文化会館 大ホール

2021年9月8日(水) 18:30、9日(木) 14:00、11日(土) 14:00、12日(日) 14:00

※開場は開演の60分前 ※上演時間：約3時間15分（休憩を含む）

指揮：リオネル・ブランギエ 演出：宮本亞門

装置：ポリス・クドルチカ 衣裳：太田雅公 照明：マーク・ハインツ 映像：バルテック・マシス

合唱指揮：河原哲也 演出助手：澤田康子・島田彌六 舞台監督：飯田貴幸 公演監督：牧川修一

	9/8(水)・11(土)	9/9(木)・12(日)
ザラストロ	妻屋秀和	齊木健詞
タミーノ	金山京介	市川浩平
弁者	久保和範	河野鉄平
僧侶I	杉浦隆大	的場正剛
僧侶II	栗原 剛	澤原行正
夜の女王	安井陽子	高橋 維
パミーナ	嘉目真木子	盛田麻央
侍女I	北原瑠美	角南有紀
侍女II	成田伊美	宮澤彩子
侍女III	藤井麻美	岡村彬子
パパゲーナ	種谷典子	守谷由香
パパゲーノ	萩原 潤	近藤 圭
モノスタトス	高橋 淳	升島唯博
武士I	与儀 巧	今尾 滋
武士II	高崎翔平	金子慧一

合唱：二期会合唱団

管弦楽：読売日本交響楽団

チケット料金（全席指定・税込）

S12,000円 A10,000円 B9,000円 C8,000円 D6,000円 学生2,000円

※チケットお申込みと同時に「二期会オペラ愛好会」へもご入会いただけます（チケット先行予約、割引サービスあり）

※お座席について：

本公演での会場お座席は新型コロナウイルス感染予防策の一環で、歌唱を伴うステージとお客様との十分な距離を確保するため、1階席1・2列目は販売致しません。それにより最前列が3列目となりますが、それ以降のお座席につきましては前後左右の間隔を空けない配席となります。（今後の感染状況や感染対策ガイドラインの変化によっては、変更となる場合がございます。）

発売日：二期会オペラ愛好会 先行予約 2021年3月27日(土)～ | 一般発売 4月10日(土)～

協賛：株式会社メニコン、上野トランステック株式会社、みずほ証券株式会社

助成：公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団

後援：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム

シーズン特別協賛企業：

興和株式会社、ダイドー株式会社、三井不動産株式会社

チケットのご予約・お問合せ：二期会チケットセンター

TEL.03-3796-1831（月～金=10:00-18:00/土=10:00-15:00/日・祝=休業）

インターネットご予約は、「二期会チケット」で「検索」 <http://www.nikikai.net/ticket/>  
その他プレイガイド

チケットスペース03-3234-9999 東京文化会館チケットサービス03-5685-0650（10:00～18:00）

チケットぴあ 0570-02-9999 <https://pia.jp/>（Pコード：193-278）イープラス<https://eplus.jp/>

ローソンチケット0570-000-407（オペレーター対応10:00～20:00）0570-084-003（自動音声24時間）

<https://l-tike.com/>（Lコード：31353）

主催：公益財団法人東京二期会

“もうひとつの『魔笛』”  
R.シュトラウス  
『影のない女』

2022年2月9日(水)、11日(金-祝)  
12日(土)、13日(日)  
東京文化会館 大ホール

指揮:アレホ・ペレス  
演出:ペーター・コンヴィチユニー

管弦楽:  
新日本フィルハーモニー交響楽団